

土壌診断 効果あり

やめた。土は黒ボクで軟らかすぎ、逆に鎮圧作業が必要だったからだ。

有機物の分

解が十分進んでいないことも分かります。有機物の投入量は従来より2、3割少なくした。茶樹のすそ刈り作業は、見た目がきれいになるため年2回してきたが、日当たりが良い園地ではむしろ、乾燥を防ぐ必要があるため、年1回に減らした。

作業の見直しは茶葉の品質に結びつきそうだ。葉色は黒っぽかったが、鮮やかな緑色に変わり、つやが出てきた。農芸環境(株)の担当者は「やった肥料がしっかり効く環境をつくれれば、費用を減らせるだけでなく環境の保全にもなる」とみる。

中村社長は「今シーズンの摘採が楽しみ。データを取って理由を考えることで、何を省けばいいか分かる。投資額も人件費だと考えれば相応のもの」と語る。2年目は生育不良園を調査し、マイナス部分を改善していく予定だ。

三重県松阪市の農業生産法人、茶来まつさか(株)は茶園地の土壌診断を行うことで、コスト削減や茶葉の品質向上を進めている。静岡県コンサルタント会社と提携。土の状態や保肥力などを測る科学的なデータを収集しこれまで行ってきた作業を見直した。

中耕→不要、すそ刈り・有機物投入→削減 省力、品質も向上

茶来まつさかは茶農家3戸で2007年に設立。22畝で茶を栽培し荒茶製造や仕上げも行う。土壌分析は昨年1月から始めた。その理由を社長の中村吉勝さん(42)は「茶園の拡大とともに作業が増え、茶価が低迷する中で費用削減が急務だった」と話す。

静岡県のコンサルタント会社、農芸環境(株)に土

三重県松阪市の茶法人



土壌診断の結果を聞く茶来まつさかの中村社長(右)

予定だ。